



定置網漁



アワビ



種苗放流



マダイ



マリンレジャー



水産振興センター参観デー

男鹿市水産業振興ビジョン

～未来へつなぐ魅力ある水産業の創造～



男鹿半島

概要

漁業・水産業を取り巻く経営環境がかつてない厳しい状況にある中、漁業・水産業を本市の基幹産業の一つとして、将来の発展を支える力強い土台となり、時代の変化に柔軟に対応するため、「未来へつなぐ魅力ある水産業の創造」をテーマに、今後の取組の方向性を示す「男鹿市水産業振興ビジョン」を策定する。

男鹿市漁業・水産業を取り巻く情勢

【国の動き】

- 海洋環境の変化等による全国的な水産業の厳しい状況
- カarbonニュートラルの推進
- 2023年農林水産物・食品の輸出額5兆円を目標
- スマート漁業・デジタル化の推進

【県の動き】

- 「新ふるさと秋田農林水産ビジョン(令和4年度)」を策定
- 収益性の高い魚種の種苗放流
- 新規就業の推進組織「あきた漁業スクール」の開催
- 販売力の強化と水産物の高付加価値化

【市の動き】

- 放流効果の高い魚種の種苗放流を推進
- 魚種・漁業の複合化や転換を促進
- 産地表示タグ取付による男鹿産ブランドの定着を促進
- 養殖技術の確立に向けた取組を支援
- 蓄養殖実証事業でサーモン・クルマエビを試験販売
- 新規担い手の定着を図る市独自の給付金を交付

男鹿市漁業・水産業の現状と課題

【現状】

- 漁業就業者の減少（高齢化、後継者不足、若年層の漁業離れ）
漁業就業者数H15：610人→R5：244人
- 海洋環境等による漁獲量の減少 漁獲量H25：4,236 t→R5：3,391t
- 魚種の変化
ハタハタH25：684t→R5：56t、アマダイH25：17 t→R5：24t
- オガーレでの直売の増加
水産物販売額H30：81,481千円→R5：179,253千円

【課題】

- 資源管理のための種苗放流の継続
- 暖水系魚種・漁獲量の変化への対応
- 漁業生産の安定化と水産物のブランド化
- 多様な担い手の育成・確保
- 漁港施設の有効活用
- 6次産業化と流通販売の多角化

4つの柱

◇つくり育てる漁業の推進 ◇男鹿の水産資源を生かした販路拡大 ◇次代を担う漁業者の確保・育成 ◇時代に即した新たな取組

施策の展開

◎目指せ！！水産物販売金額 15億円

柱1 つくり育てる漁業の推進

取組① 重要魚種の生産拡大

漁業者グループ、民間事業者が行う海面・陸上養殖等の事業化、収益性が高く地先定着型で放流効果が期待できる魚種の種苗放流 など

取組② 資源の維持・増大

出荷サイズ規制などの資源管理を推進、海浜清掃や種苗放流等の水産業・漁村の多面的機能発揮に資する活動を支援 など

取組③ 新たな特色ある魚の生産

漁獲対象魚種・漁法の複合化や転換を促進 など

取組④ 漁港施設の整備

漁業施設の機能強化や維持、海面養殖による漁港の有効活用 など

柱2 男鹿の水産資源を生かした販路拡大

取組① 流通販売の強化

オガーレ等での水産物や加工食品の販売促進を支援、ふるさと納税返礼品の強化、産直ECサイトの活用により漁業収入の底上げ など

取組② 特色ある商品開発

男鹿ならではの魚介類を利用した商品開発の推進、CAS（急速冷凍機）による高鮮度加工及び販路拡大の推進 など

取組③ 産学官の連携強化

学校や民間企業と連携して地場産材料を活用した商品開発の後押し、男鹿独自の食文化の発信 など

取組④ 加工施設の整備

加工施設の有効活用、水産加工の企業誘致の推進 など

柱3 次代を担う漁業者の確保・育成

取組① 後継者等の確保・育成

補助制度等による新規漁業就業者の支援、「あきた漁業スクール・トライアル研修」の活用、小学生を対象としたマダイ、ヒラメの稚魚放流体験 など

取組② 担い手の環境整備

県漁協青年部・女性部の活動支援や県が認定する漁業士など次代を担うリーダーの育成 など

取組③ もうかる漁業の推進

地元水産物の付加価値化や経営の多角化などにチャレンジできる環境づくり など

柱4 時代に即した新たな取組

取組① スマート漁業の推進

ICTやAI等の先端技術の活用、水中ドローンを活用した操業の省力化 など

取組② 藻場の保全

岩盤清掃による藻場（ギバサ）の造成 など

取組③ Jブルークレジットの導入

ブルーカーボンの観点から藻場造成の取組を推進 など

取組④ 洋上風力発電事業や民間事業者との共生

洋上風力発電施設の観光への活用、釣りなどのマリンレジャーなど、漁船・遊漁船を活用した多角経営化、養殖事業者への支援 など